

平成30年7月5日（木） 釈迦内公民館

1. 近頃、引きこもりやいじめられた子が重大犯罪を犯している。私は教師のいじめで不登校や引きこもりが多くなったと思っている。体罰を学校が隠している場合もある。教師による生徒への暴力の有無について教えてほしい。

(回答) 教師による体罰はあってはならないことであり、教職員に対しても日頃から校長が指導を行っております。

毎年12月には、全小中学生とその保護者に対して「体罰に係る調査」を実施しており、その結果については、各校の管理職と教育委員会が把握しております。

昨年度、市内の小中学校で体罰はなかったことを確認しており、今後も、言葉による暴力も含めて体罰は絶対許さないという基本姿勢を徹底してまいります。

未来大館市民を育成する本市の教育においては、どの子にも自立と社会参画を見据え「一人たりとも置き去りにしない教育」を推進しております。この中で、引きこもりやいじめは重大な事案であると認識しており、子ども一人ひとりの変化に早期に気づき、子どもの情報を教育と福祉、保健、医療が連携した独自の相談・支援ネットワークで共有しながら、家族への支援も含めて対応しているところです。

また、今年度から教育委員会に臨床心理士を配置し、より専門性のある支援や対応が可能となりました。

これらの問題については、学校だけでは解決できないものもあり、町内の方々をはじめとする地域全体にもご理解とご支援をいただきながら取り組んでまいります。

なお、児童生徒や保護者から「体罰を受けた」との申告があった場合は、状況を調査したうえで、校長から該当する教師に対して指導を行い、場合によっては学校と本人や保護者が十分協議を行うなどしながら解決してまいります。

2. 北陽中学校のそばに頻繁に熊が出ている。部活等で帰宅が遅くなる中学生を守ってほしい。

(回答) 北陽中学校周辺では、特に今年度は目撃情報が多いことから、檻を設置するなどの対策を実施しましたが、その後も目撃情報が続いたことから、地元町内会等の協力により、8月26日に通学路周辺の下草の刈り払いを実施しました。

現在のところ、学校周辺でのクマの目撃情報は減少しましたが、学校では、登下校時間帯に合わせて職員が自家用車で通学路を巡回するとともに、クマの目撃情報が多い箇所では、現地での安全指導を実施するなどの対策を引き続き行っております。また、生徒へは、でき

るだけまとまって行動するよう、また自転車での登下校時はベルを鳴らすなどして、人の気配を知らせるよう指導しているほか、保護者には、部活動後の帰宅時についても、保護者へ可能な限り自家用車での送迎をお願いするとともに、クマを遠ざけるため、周辺道路をできるだけ多く自家用車等で通行していただくようお願いしております。

さらに大館警察署には、学校周辺のパトロール強化にご協力いただいております。

クマの出没に限らず、登下校時の通学路については、交通安全や防犯対策も含め、地域住民や保護者のご協力を得ながら安全確保に努めてまいります。

3. 新庁舎建設の市の持ち出しはどれくらいか。あまり金をかけないように。

(回答) 現在の概算事業費として約49億9千万円を見込んでいることを、市議会9月定例会で報告したところです。

これまでも随時、事業費の動きについて報告をし、新聞等にも掲載されてきましたが、東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた建設需要の増大や、国内で立て続けに発生した地震や風水害などの影響で、建築資材の高騰や人手不足による労務費の増加などがあり、事業費は当初よりも増加しました。

今後の社会、経済情勢によってさらに資材単価の変動も予想されますが、できるだけ今回示した50億円程度の事業費に抑えたいと考えております。

なお、新庁舎建設に向けては、これまで市の貯金といえる基金を積み立てていて、現在約17億円あります。また、事業費の多くは国の合併特例債という有利な条件の借り入れ金で賄う予定です。これらの資金を上手に使いながら、また、建設後の維持経費なども少なくできるように十分に考えながら、将来の市の財政負担が大きくなるよう努めてまいりますので、ご理解をお願いいたします。

4. 市立病院では「名前を書いて投書すれば、きちんと回答する」としているが、私の投書、「眼科は9時15分～9時30分から診察を始めている。どうして他科のように9時から始めないのか」との投書には回答が来なかった。そのため市立病院の事務局長に電話をしたが、たらい回しされ、とうとう事務局長は電話に出ず、担当者の説明で終わった。どうしてか。

(回答) 貴重なご意見をいただいているが、正式な回答をしないままとなり、誠に申し訳ありませんでした。

総合病院の眼科では、昨年度以前は午前9時以降に診察開始となることが多く、そのために診療終了時間も遅れ、患者さんに多大なご迷惑をおかけしていることについて、院内でも改善方法を話し合っていました。眼科は常勤医師1人、非常勤医師2人の体制ですが、う

ち1人の非常勤医師は遠方から出勤していることから、勤務開始が9時以降となっていること、常勤医師が前日当直に当たっている場合は勤務が免除されることなどが、診療開始時間に影響が及ぶ原因となっておりました。

今年4月からは、診療体制の見直しにより診療開始時間を「原則9時」に改めましたが、現時点の医師数では現在の患者数に対応するにはまだ不足していることから、診療待ち時間の短縮には至っていない状況です。今後も常勤医師の招へいや医療スタッフの効果的な配置などにより、診療がスムーズに進行するよう、工夫してまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

また、回答が適切に行われなかったことについては深く反省しております。進行管理を怠ったことと、配置転換後の適切な業務分担ができていなかったことが要因であり、現在、迅速な業務執行ができるよう、業務改善と体制を見直ししておりますので、ご理解をお願いいたします。

平成30年7月5日（木） 北地区コミュニティセンター

5. ターゲットバードゴルフをニプロハチ公ドームの語らいの森で行っているが、かなりの樹齢で大木が多く、枝の落下が今年も2件あった。午前中には幼稚園児の散歩も見かけられ、事故がなければと心配だ。来年には東北大会も予定されており、種苗交換会も開催されるという。指定管理者に申し入れてもよい返事が来ない。

(回答) 語らいの森の樹木につきましては、7月末に支障木の伐採や剪定などを実施したところですが、今後は、樹木の維持管理を徹底するよう指定管理者に指導してまいりますので、ご理解をお願いいたします。

6. 長木川の河川敷でラジオ体操を行っている。以前は年4回草刈りをしてくれたが、今は2回だけ。河川敷は距離も長いが市の中心でもあり、草だらけにしないでもっと力を入れてほしい。

(回答) 長木川河川緑地の草刈りは、草丈の状態やイベント等の開催時期を考慮しながら6月上旬および8月上旬に作業を実施し、今後は9月中旬に作業を実施する予定です。

また、「大館樹海ターゲットバードゴルフクラブ」や近隣町内会等の利用団体によるご協力もいただきながら、職員による作業も含めて維持管理に努めているところです。

引き続き利用者により親しまれるよう美化活動に努めるとともに、今後は活動に支援いただける市民や団体などを募り、また草刈り作業の実施時期についても検証してまいります。

7. 中道児童公園の奥の方に松の大木がある。カラスが営巣しているので駆除してほしい。

(回答) 現地で目視による状況調査を行いました。カラスの営巣は確認できませんでした。今後、改めて専門業者に依頼のうえ、発見した際には速やかに駆除してまいります。

平成30年7月6日(金) 田代公民館

8. 扇田病院の着服事件については、事件が起きた原因について、もっと分析が必要ではないか。また、市長は、「職員の意識改革をしていく」と答弁しているが、どのように意識改革に取り組んでいくのか、よくわからない。

(回答) 扇田病院の事件が起きた原因につきましては、患者さんから支払われた自己負担金の集計データを改ざんできることを病院担当者が把握していなかったこと、病院のチェック体制や受託業者の管理体制の不備、また着服額が徐々に増加していたことが患者数の減少や医療制度の改正などで気付きにくい状況だったことなどが挙げられます。

今回の事件をきっかけに、医事システムに収納POSレジシステムを導入してセキュリティを強化し、また医事システムの不正操作の有無の確認のために、書損リストや日計除外リストにより業務が適正に処理がされているか日々確認を実施しております。

また、受託会社の担当者との釣り銭や収納金の引き継ぎの際、引継簿により現金管理の厳正化を図りました。

職員の意識改革につきましては、医事業務が適正に行われているか定期的に打合せを開催し、職員相互にコンプライアンス意識の向上について周知徹底を図っております。

受託会社に対しましては、収納業務担当が3年を超えないよう定期的に配置転換することなどを明記した「窓口収納業務に伴う重要事項確認書」を取り交わすとともに、受託会社の従業員が業務上の事故を起こした場合は、事故報告とともに速やかに改善策を講じるよう指導しておりますので、ご理解をお願いいたします。

9. 市立病院の患者が減って、赤字が増えていると新聞に出ていたが、まず、希望した人が市立病院に行き、診てもらって軽かったら、別の病院(かかりつけ医)に行くというふうにすれば、患者はもっと増え、赤字も解消されるのではないか。

(回答) 病院の医療費収入は大きく外来収入と入院収入に分けられますが、入院収入が病院の収入に大きく影響しております。

総合病院では、一部の診療科で常勤医師が不足していることから、入院診療を制限しなけ

ればならない状況が発生していますが、病棟自体は維持する必要があるため、収入と支出のバランスが崩れて赤字の要因となっております。

さらに急性期医療を担う病院には、国から入院期間の適正化（短縮）が求められ、現在、総合病院の入院期間は全国標準並みとなりました。このような入院期間の短縮は統計上、患者数の減少として現れます。

このように、患者数の減少で問題となるのは主に入院患者についてとなります。

平成30年の診療報酬改定では、これまで許可病床500床以上の病院に課せられていた規制が許可病床400床以上の病院を対象を拡大しました。その中には紹介率や逆紹介率を一定以上に保つことも含まれます。つまり、総合病院のような許可病床400床以上の病院は、入院診療を中心とした運用を強化し、外来については地域の医療機関との連携をより重視して運用するよう求められました。

このような状況を受け、総合病院では医師確保を含め、入院診療体制の充実を図るとともに、外来診療において地域の医療機関との連携をさらに強化する必要があると考えております。このことが、地域における総合病院の役割に応えることになるとともに、診療単価の上昇や収入の確保につながるものと考えております。

10. 市立病院で、ある人は紹介状がなくてもよかったとか、ある人は断られたとか聞くが、市民にわかるように説明してほしい。

(回答) 総合病院では、紹介状の持参を必要としている診療科と、小児科、産婦人科、外科など持参を不要としている診療科があります。

総合病院は地域の中核病院として、二次医療や救急医療など、急性期や重症のかたを受け入れる役割を担っており、地域の他の医療機関と役割分担をして地域医療の確保に努める必要があります。

患者数が多く医師が少ない呼吸器循環器内科、消化器血液腫瘍内科、脳神経外科、泌尿器科、整形外科および眼科では、この役割分担が重要となるため、救急の場合や重症の場合を除き、原則として新患は紹介状をお持ちのかたを優先させていただいております。

これらの診療科においても、紹介状を持たない患者さんにもできるだけ対応しておりますが、診療予約した患者さんが優先となること、また紹介状を持たない患者さんの病状をはじめ、受診する診療科の当日の患者数、担当する医師の手術等の日程を考慮しながら当日の診療の可否を個々に判断することとなりますので、ご理解をお願いいたします。

11. 扇田病院の着服事件は、誰に責任があるのか、はっきりさせてほしい。

(回答) 扇田病院の着服事件につきましては、元従業員は、医事業務受託会社の業務管理のもと収納業務に従事し、患者から外来診療費自己負担金を受領し、そのすべての現金を病院職員に引き継ぐべき責任がありましたが、病院に引き渡す前の受託会社の管理下にある現金の保管の過程で、現金を抜き取る不法行為が行われていたものです。

その元従業員の使用者責任は受託会社にあることから、損害賠償請求の民事訴訟を提訴したところです。

現在係争中の事件であり、責任の所在は、司法の判断に委ねることになりますので、ご理解をお願いいたします。

12. 統廃合されている小学校の利活用はどうなっているのか。

(回答) 統廃合などで閉校した校舎については、旧矢立中学校を公民館として活用したほか、地元の団体と企業に貸し出して利活用する取り組みを進めています。現在、旧山田小学校など4施設を貸し付けていますが、未活用の廃校施設がまだあることから、昨年9月、文部科学省ホームページの「みんなの廃校」プロジェクトに旧大葛小学校と旧岩野目小学校を掲載し、利活用を希望する企業等を募集しているところです。

空き校舎の利活用は、民間投資を誘発し地域経済の活性化につながり、さらには、住民の雇用などにより地区に活力をもたらすものと考えております。増築及び改修費用助成金などの奨励措置などについても広く周知しながら、引き続き企業等の誘致に取り組んでまいります。

13. 健康なまちづくりに取り組んでほしい。

(回答) 市では、第2次新大館市総合計画において「市民が健康でいきいきと暮らすまち」を目標に、健康意識の高揚や生活習慣病の予防など7項目の施策を掲げて取り組んでおります。今年度は、特に健康寿命日本一を目指して「健康づくり人材育成事業」や「健康ポイント事業」、「健康づくりチャレンジ事業所認定事業」を実施しているところです。

さらに、妊娠期からの切れ目のない子育て支援や心の健康づくりの推進など、ライフステージに応じた市民の健康づくりに努めております。

平成30年7月6日(金) 高齢者・若者センター

14. 大葛には、すばらしい自然があり、コテージ、旧小学校校舎、温泉等々がある。この地域が元気で活性化していくよう大館市でも最大限の努力をしてほしい。

(回答) 大葛地区につきましては、昨年休業した比内ベニヤマ荘周辺の再生について、市と地区の代表者等とで現在協議中です。その中で、要望のあった路線バスを町民浴場まで延伸することについては、10月から運用を開始することになりましたが、その他の多くの要望については、まだ協議している状況にあります。

今後も、地域応援プラン事業など地域コミュニティを支援するメニューの活用も視野に入れながら、このベニヤマ荘周辺の再生、そして大葛地区の活性化を目指して協議を続けてまいります。

15. 旧正札竹村の取得には反対であった。今回、本館が解体されることになったようであるが、解体後の活用計画はあるのか。

(回答) 旧正札竹村本館棟につきましては、さまざまな観点から活用を検討してまいりましたが、建物の損傷や老朽化が著しいことから、解体すべきと判断し、今年度から解体工事に着手したところです。

解体後の跡地は、周辺地区再生の種地として、民間事業者主体の再整備に期待しているところであり、併せて周辺一帯の面的な整備につながるよう、その実現化構想や具体化方策を関係者と検討してまいります。

16. 旧正札竹村を取得するだけでなく、全体的なビジョンが必要であった。早くビジョンを示すよう要望する。

(回答) 旧正札竹村新館A・B棟は、引き続き現状の建物の利活用を促進し、立体駐車場跡地は公的利用の推進に向けて関係機関と協議中です。

また、本館棟解体後の跡地利用は、その周辺再生を図る種地として民間の再整備に期待しており、その実現化構想や具体化方策を関係者と検討してまいります。

17. 大葛のコテージを利用したサテライトオフィス事業は、その後どうなっているのか。旧大葛小学校を利用してのシェアオフィスも考えられるのではないかと秋田犬のことで聞かされてくるが、観光と食は密接な関係がある。食のことをもっとPRしてほしい。事業は、単発ではなく継続していくことが重要。以上要望する。

(回答) ベニヤマ荘のコテージを活用したサテライトオフィス事業は、昨年度は71社227人の企業等に勤務体験をしていただきました。この取り組みの成果により、8月に株式会社

あしたのチーム（本社・東京都中央区）のサテライトオフィス開設につながりました。

今年度も同事業を実施しており、8月から企業等の受け入れを開始しています。9月2日現在、2社が体験済みであり、今後も10社程度の利用申込みをいただいております。

この事業により、さらなるサテライトオフィスの誘致につなげるとともに、体験企業と市内事業者や人材との交流やビジネスの創出にも結び付けたいと考えております。

また、旧大葛小学校を利用したシェアオフィスについては、統合された小学校の跡地利用の選択肢の一つであると考えます。

市では、空き公共施設等の有効利用と地域活性化及び雇用機会の拡大を図ることを目的に、平成25年に空き公共施設等利活用促進条例を施行して空き公共施設等の利活用を推進しております。小中学校の統廃合に伴う空き校舎につきましては、旧三岳小学校や旧雪沢小学校などが、この制度を活用した民間企業の利用につながっております。

サテライトオフィス事業は、昨年度からスタートした事業であり、シェアオフィスの必要性は、これから企業のニーズを把握しながら、企業へのPRを含めた情報発信をしたうえで、民間活用につなげるような取り組みが必要と考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

また、観光と食につきましては、きりたんぼや比内地鶏などを「本場大館きりたんぼまつり」や「肉の博覧会」などで多くのかたに楽しんでいただいているほか、渋谷区民祭など県外のイベントにおいても、実際に食べていただくなど、さらなる知名度向上のため積極的にPRを行っておりますので、ご理解をお願いいたします。

18. 現在は映像の時代。市中心部にはケーブルテレビがあるようだが、早く全市に行政ニュース、情報・スポーツ・芸能・各種イベントがテレビで見られるよう努力してほしい。

(回答) 市中心部では、大館ケーブルテレビ（ニューデジタルケーブル株式会社）が自社で設備を整備し、ケーブルテレビのサービスを提供しております。通常の地上デジタル放送やBS、CS放送とは別に、自主製作番組を放送する「おおだてチャンネル」があり、市議会や地域イベントなど地域に密着した身近な情報を、ケーブルテレビ加入者だけが視聴できるコミュニティチャンネルとなっております。

地域密着型の放送事業者は、市内では大館ケーブルテレビしかなく、市では、これまでもサービスエリアの拡大をお願いしてきておりますが、エリア拡大には新たな整備が必要であり、同社の事業計画や経営方針にも関わる問題であることから、ご理解をお願いいたします。

また、映像サービスはテレビだけでなく、パソコンやスマートフォンなどでも視聴できます。市でも、ホームページに観光関係などの動画を公開しておりますので、ぜひご覧ください。

19. 市長は、観光に力を入れ、面的に広がりが見られている。そこで、奥羽本線・内陸線等々鉄道を利用した観光戦略も必要ではないか。小坂町に小型の蒸気機関車があり、それらを利用する方法もあるのではないか。

(回答) 昨年、JR東日本秋田支社が中心となり、函館・津軽・秋田広域観光推進協議会が設立され、周遊ルートの確立に向けた取り組みが行われております。市も参加しており、JRを活用した観光戦略の実現を図ってまいりたいと考えております。

内陸線の活用については、3D連携（函館・大館（小坂、北秋田を含む）・角館で構成する広域連携の枠組み）の中で、角館に向かう交通手段の一つであり、森吉山や阿仁マタギの里など、沿線に観光資源も豊富にあることから、活用するべきと考えております。

小坂町の蒸気機関車については、小坂町の小坂鉄道レールパークに保管されております。小坂町は観光地域づくり組織「秋田犬ツーリズム」や3D連携などで連携している自治体であり、地域内の誘客が増えることは好ましいことであることから、蒸気機関車を活用した誘客により、来訪者が増えることを期待しております。

鉄道は周遊ルートの確立において、また観光資源として重要であると考えておりますので、今後活用方法等を検討してまいります。

20. 地域おこし協力隊は、1回で終わるのではなく、2回・3回と継続してほしい。

(回答) 地域おこし協力隊は平成21年度に制度化され、本市では平成22年12月に大葛地区に2人が着任したことから始まり、越山地区の2人の後、平成27年8月に移住プロデューサー、平成28年9月に秋田犬ふれあい隊、平成29年4月に英語教育推進アドバイザー、同年6月に体験旅行プロデューサー、本年8月に教育ツアーコンダクターが着任し、現在12人の協力隊員が活躍しております。

また、今年任期満了を迎えた平成27年度に着任した移住プロデューサーについては、2期目となる後任の移住プロデューサーが着任しております。

本市では、地域おこし協力隊が、移住交流課、観光課、学校教育課の3課に所属しておりますが、移住交流事業や秋田犬を軸とした観光振興、教育の産業化の推進のため、今後も地域おこし協力隊を継続して活用してまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

平成30年7月7日（土） 比内公民館

21. 「扇田地名発祥の地」の看板が倒れている。

(回答) ご要望の看板は、合併前の比内町教育委員会が平成16年3月に設置したのですが、平成20年頃に隣接する廃工場の屋根からの落雪により、お地蔵様と三輪様とともに破損したものです。

その後、お地蔵様と三輪様は隣接の場所に移されたため、看板は平成28年5月に撤去いたしました。

歴史的風致維持向上計画の中には、こうした文化財の案内板について、多言語表示に対応した統一デザインのもを設置することとして、「どこでも博物館」や「大館城下の町名板」整備などの事業を組み込んでおります。

比内地域につきましても、地元の要望に合わせながら、少しずつ整備を進めており今後も整備を進めていく予定です。

ご要望では、多少現状に合わなくても、撤去したものをできるだけ早く立ててほしいとのことから、現地を確認の上、支障がなければ撤去した看板を復旧させる方向で対応してまいりたいと考えております。

22. 歴史まちづくり事業は、旧大館のことだけだ。他の建物にも予算を回すべき。

(回答) 現在、市では国から支援を受けられる重点区域内の「歴史的風致形成建造物」に指定された建物の保全と活用に取り組んでおります。

ご要望の重点区域以外の建物につきましては、どのような支援が可能か、建造物所有者の意向や地域の皆様のご意見を伺いながら、地域の皆様に相談してまいりたいと考えております。

また、ソフト事業として市民や関係者が中心となって実行委員会を立ち上げ、今年から地域遺産の保全活用に貢献する活動を行う「ヘリテージマネジャー」の育成や、伝統芸能の後継者の養成など、重点区域以外も含めた市全域で「文化遺産総合活用事業」に着手しました。

伝統芸能の継承などを検討されている事案がありましたら、ぜひ実行委員会への参加も含め、ご相談いただければと考えております。

23. こでんの回収方法がよくわからない。住民はほとんど知らない。もっと広報を徹底し、設置場所を提示してほしい。

(回答) こでん回収は、電気や電池で動く小型家電のうち、こでん回収ボックスの投入口（縦15センチメートル、横25センチメートル）を通るものを対象としております。

回収ボックスは市役所や主な郵便局をはじめ、市内のスーパーや家電量販店など、市内3

8箇所に設置しております。比内地域では、比内総合支所、比内公民館、大葛郵便局、いとか比内店に設置しておりますので、ご利用ください。詳しくは、毎戸配布している冊子「家庭ごみの正しい分別表」をご覧ください。

平成29年10月からは、大館市エコプラザにおいて、こでん回収ボックスに入らない大きさの小型家電の一部の無料回収を始めました。ご利用の際は、対象品目を確認いただき、大館市エコプラザに直接お持ちください。

また、こでん回収の周知につきましては、家庭ごみの正しい分別表や広報おおだて、市ホームページ、町内会や団体への出前講座などを実施しており、今後は、小中学校における環境教育やイベントでの回収に重点をおいて取り組みたいと考えております。

24. 公園の遊具の利用者（若いお父さん）が目立つが、遊具が壊れていて、テープを張っている。保育所の遊具は、土日は使えない。2年間も壊れたままなので、早く直してほしい。

(回答) 市内の公園の損傷や劣化が著しい遊具につきましては、利用者の安全確保のため使用を禁止しておりますが、撤去や更新を必要とする遊具が相当な数にのぼります。このため、国の交付金制度を活用しながら、計画的に更新を図ることとして、全体で5カ年での整備完了を目標に、今年度から着手しております。

利用者の皆様には大変ご不便をおかけしますが、ご理解をお願いいたします。

平成30年7月7日（土） 十二所公民館

25. 大館には、歴史的建物はあるが、看板や資料はなく、草はぼうぼうだ。案内板・パンフレット・草刈りなど、整備を市全体でやってほしい。

(回答) 本市には国や県、市の指定文化財のほか、地域で大事にされている文化財や建物が多数あり、その多くは、所有者や地域の皆様のご支援で守り育てていただいております。

歴史的な建物の敷地を市が全て除草することは困難ですが、所有者や地域の皆様とご相談し、改善のための方策を検討してまいります。

なお、案内板の整備やパンフレット作成は、建物所有者のご理解をいただきながら、庁内の関係部署が連携して整備に取り組んでまいります。

26. 大滝温泉の危険空き家について。自治会で3カ所危惧している。通学などに危険があり、事故も心配。債権者が複雑等、法律的にも難しさがあるとのことだが、対策をお願いしたい。

(回答) ご要望の3カ所の空き家対策につきましては、屋根材の飛散や通路への落雪など危険な状況であったことから、空き家を適正管理するよう所有者に通知するとともに、連絡先が判明している所有者には直接電話で申し入れてきたところです。この件に関しましては、先般、ご要望をいただいた大滝の町内会長ともお話ししたところですが、問題の解決に至っていない状況です。

今後、通知等によっても改善されない場合は、「空家等対策計画」に基づき立ち入り調査を行い、市の「空家等対策検討委員会」および「空家等対策協議会」を経て「特定空家等」と認定した場合は、所有者への「助言・指導」「勧告」等、順次措置を進めていくこととなります。

空家等は、第一義的には個人の財産であり、所有者等が自らの責任で適正に管理することが原則です。今後、所有者と連絡を取りながら、解決に向け進めてまいりたいと考えております。

なお、強風等により、緊急に危険を回避する必要がある場合は、条例により市が応急措置することとしております。

27. 道目木から大滝に来る道の雪解け後のアスファルトの補修の仕方が雑で、かなり傷んでいる。労災病院があり救急車もよく通り、搬送車もわかるほどひどく、サロンパス舗装。補修をていねいにやってほしい。

(回答) 舗装の破損については、道路パトロールやバス会社、市民からの情報に基づき、舗装業者による補修を行っており、緊急対応が必要な箇所については、職員による応急処置に努めているところです。

また、損傷が著しく全面的な改修が必要な道路につきましては、補修計画に組み入れ、道路の重要性や緊急性を勘案しながら、優先順位を決定し、計画的に補修を実施しております。

旧国道103号の大滝温泉入口のY字路から労災病院へ向かう最初の十字路までの間の道路につきましては、ご指摘のとおり補修を重ねている状態ですが、応急補修においても丁寧な施工に努めるとともに、損傷状況を確認しながら、補修計画への組み入れを検討してまいります。

28. トムトムの広場が廃屋になっている。桜の木がたくさんあり、よい公園だったが、ひどい状態。遊具も遊べる状態ではない。てんぐ巣病が蔓延し、観光課予算と自治会で協力してやったが、高齢化が進んで厳しい。

(回答) 湯夢湯夢の広場につきましては、平成29年度から草刈業務を大滝温泉自治会に委託

し、平成30年度から草刈業務と桜の枝の剪定業務を同自治会に委託しております。

自治会が高齢化して業務が厳しいという点につきましては、今後自治会と協議してまいりたいと考えております。

また、遊具については状況を確認し、市民が気持ちよく利用できるよう、管理をしてまいりたいと考えております。

29. 茂木墓所、成章書院などの歴史関係箇所の草刈り等整備を十二所4町で手分けしてやっている。整備費用を予算化してほしい。

(回答) 地域の文化財を守る活動を長い間続けられている皆様に、敬意を表します。現在、市には7件の国指定文化財、16件の県指定文化財、45件の市指定文化財があります。

また、指定にはなっていないものの、それぞれの地域で大事にされている石碑等の文化財が多数存在し、市の文化財マップには、2,348件が掲載されております。

これらの文化財は、所有者や管理者、地域の皆様の努力により守られ、後世に継承されてきました。

市では、「歴史的風致維持向上計画」に基づき、歴史や文化を大事にして、市民が自信と誇りを持てるまちづくりを目指しておりますが、これらすべての文化財を市の責任で維持していくことは、物理的に不可能な状況です。

今後も、地域の皆様で地元の大事な歴史や文化を共有しながら、地域の文化財を地域で守る活動を展開していただければと考えております。

なお、通常の維持管理だけではその継承が困難なほど資源が朽ちている場合、地域活動を支援する制度として、市の「地域応援プラン」や、文化庁の歴史文化遺産活用まちづくり実行委員会などがありますので、ご相談ください。

平成30年7月8日(日) 中央公民館

30. 道路管理について。国や県より修繕などの遅れがあるのではないかと。他市に比べ(損壊などの)直りが遅くはないか。

(回答) 道路の維持管理につきましては、定期的に道路パトロールを実施しながら、道路状況の把握に努めており、パトロールの結果をはじめ、バス会社や市民からも情報を得ながら、随時業者による舗装の補修を行っております。また、緊急対応が必要な箇所は、職員による応急処置も実施しております。

経年による道路の老朽化により舗装の傷みが進んでおり、また今年3月に異常低温が続い

たことで、路盤が凍結して舗装の損傷がさらに進んだことから、本年度に補正予算を計上しながら、補修を進めているところです。

今後も、道路パトロールを実施しながら、適切な対応に努めるとともに、損傷が著しく全面的な改修が必要な道路につきましては、道路の重要性、緊急性を勘案しながら、優先順位を決定し、計画的な補修に努めてまいります。

31. 公民館について。中央公民館を除き、地区公民館のない地域ではコミュニティが停滞している。「拠点」は必要である。

(回答) 地域コミュニティに拠点を設け、地域の活性化を図ることは大変重要であると認識しております。

また、近年の少子高齢化社会においては、地域コミュニティの担い手である町内会や婦人会、老人クラブ、子供会など地域の現状把握も必要と考えております。

現在、市には中央公民館のほか、地区公民館を11地区に設置しており、さらに地区公民館には19の分館があります。分館は比内地域と田代地域に細かく設置されており、地域に密着した生涯学習事業や貸館業務のほか、災害時には防災拠点としての避難所の役割も担っております。

また、女性センター、勤労青少年ホーム、北地区コミュニティセンターなども多くの市民に利用されているところです。

このほか教育委員会の取り組みとして、地域コーディネーターを各小・中学校に配置し、学校を核とした地域とのつなぎ役として積極的に活躍していただいているところです。

今後も、さまざまな面で市民の皆様に情報提供しながら、現在ある施設を拠点として地域コミュニティの醸成に努めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

32. 合葬墓について。秋田市では大好評と聞く。市民に必要なかどうかアンケートをとったらどうか。

(回答) 先般、秋田市で合葬墓の募集に申し込みが殺到して話題になったことで、合葬墓等の永代供養墓が注目されるようになったと認識しております。

市民の永代供養に関する相談に対応するため、市では現在、市内の宗教法人（お寺等）に永代供養墓等の設置状況についてアンケートを実施しており、その結果を永代供養墓等の利用について市民から相談があった際に、情報提供してまいります。

今後も、市民から相談があった際にご意見を伺いながら、合葬墓等の必要性について検討してまいりたいと考えております。

33. 孤独死について。後を絶たない。対策を講じてほしい。

(回答) 市では、民生委員に調査を依頼して65歳以上の高齢者の世帯を訪問調査する「高齢者在宅実態調査」や、商品を配達する事業所や郵便局等と協定を結び、お年寄りの世帯で日常と異なる点に気付いた際に行政や警察に連絡していただく「高齢者見守り隊」、独り暮らしや高齢者世帯に緊急通報装置を貸与して緊急時の連絡体制を確保する「緊急通報システム業務」など、高齢者を見守るためのさまざまな事業により、孤独死防止に努めているところです。

さらに、社会的孤立を防ぐため、住民主体のサロンを増やしていくことにより、高齢者を一人ぼっちにさせない、いつまでも安心して地域で暮らし続けることができるまちづくりを目指してまいります。

平成30年7月8日(日) 岩野目分館

34. 幹線道路の春先の舗装の補修が、穴埋めだけの簡易的なもので、一月程度しかもたない。全体的な補修はできないのか。

(回答) 田代地域の舗装補修は、幹線道路の市道早口線について重点的に補修を進めております。昨年度は坂地地内で実施し、今年度は坂地地内のほか、中仕田地内でも実施しております。

今後も幹線市道の損傷状況を把握しながら、補修を計画的に進めてまいります。

35. 岩野目地区では農業集落排水が平成16年度に供用開始した。工事後、大型トラックの通行で補修部分から壊れていく。なぜだろうか。

(回答) 岩野目地区の農業集落排水管を埋設したあとの舗装復旧は、埋設した側の車線のみでの復旧となっており、全幅員での復旧と比べると舗装は傷みやすいことをご指摘のとおりです。

また、舗装復旧してから14年が経過していることから、全体的な補修は必要と考えておりますので、損傷状況を把握しながら、補修を計画的に進めてまいります。

36. 除雪についての要望。農道を冬期間使用できるようにして、災害時のう回路としての機能を持たせるために、年数回の除雪をお願いしたい。

(回答) 岩野目集落の山側の農道については、道幅が3～4メートルと狭く、除雪後はさらに

狭くなることから、車両の行き違いが非常に困難で、脱輪などが多発する恐れがあります。このため、冬期間のう回路としては適しない区間と判断し、市町村合併時には除雪を行っていましたが、除雪路線見直しの際に、除雪を行わない区間としておりますので、ご理解をお願いいたします。

今後も、きめ細かな除雪を心掛けるとともに、雪解け時には押し雪の排除を行い、春の農作業に支障とならないよう努めてまいります。

37. 清水町のエコプラザから洋服の青山間の道路状態が悪い。

(回答) ご指摘の市道御成町片山根下戸線は交通量が多く、舗装の激しい摩耗により路面がわだち状態となっているため、既存舗装を一旦削り、新しい舗装をその上に被せる「切削オーバーレイ工法」を用いて、平成28年度から大館駅入口交差点から片山方面に向けて補修工事を実施しております。

今年度は155メートルを実施する予定としており、今後も引き続き当該市道の補修を計画的に進めてまいります。

会場アンケートから

38. 扇田ふれあい公園の子供の遊具を使えるようにしてほしい。

(回答) ふれあい公園の木製遊具ブランコなどの遊具は、損傷や劣化が著しいことから、利用者の安全確保のため使用を禁止しております。

市内の各公園においても撤去や更新を必要とする遊具が相当数あることから、国の交付金制度を活用しながら計画的に更新することとしており、全体では5カ年での整備完了を目標に、今年度から着手しております。

利用者の皆様には大変ご不便をおかけしますが、ご理解をお願いいたします。